



島原半島の安全・安心な街づくりを 資金援助と物品寄贈で支える

島原半島遊技場組合 (長崎県遊技業協同組合) 「安全・安心街づくり」事業



島原半島遊技場組合
組合長
藤山剛士さん

南島原市に対して全自動血圧計や 振り込め詐欺対策機器を寄贈

長崎県の島原半島で営業している11ホールが加入する島原半島遊技場組合。同組合管内には、島原市、南島原市、雲仙市の3自治体があるが、同組合では安全・安心な街づくりに協力するため、地元自治体や防犯協会などに健康器具や防犯機器の寄贈や資金支援のほか、イベントへの参加などを継続的に行っている。

昨年2月、同組合では、南島原市に対し、市民の健康管理に役立つよう、全自動血圧計2台(50万円相当)を寄贈した。この寄贈に対し、南島原市長からは「来庁する市民の健康管理に役立てたい」との謝辞があったが、その言葉通り、寄贈された全自動血圧計は南島原市役所のロビー内に設置され、来庁した市民が待ち時間などに自由に活用する姿が見られる。

また、南島原市防犯協会に対し、後を絶たない特殊詐欺抑止のために「振り込め詐欺見張隊」という機器を50台(50万円相当)寄贈した。この機器は電話の着信時に、「この電話は振り込め詐欺等の犯罪被害防止のため、会話内容が自動的に録音されます」と、発信者側にアナウンスされるもので、これによって振り込め詐欺犯だった場合には抑止効果が生まれると同時に、高音質で通話を録音できることから、振り込め詐欺犯の特徴などが判別しやすくなり、録音データを警察に提出することで、犯人の声を声紋分析し、逮捕の糸口をつかむことができるとされている。



全自動血圧計と振り込め詐欺対策機器の寄贈式



寄贈式には南島原市長、南島原警察署長、島原半島遊技場組合長など、約20名の関係者が参加



長崎県防犯協会連合会の総会で感謝状を授与



長崎県防犯協会連合会から贈られた感謝状

寄贈に際して、南島原警察署長からは「今なお減少を見ない特殊詐欺防止になるよう有効活用したい」という謝辞があった。寄贈された振り込め詐欺見張隊は南島原市内の希望する高齢者世帯に貸し出され、特殊詐欺抑止に貢献している。

なお、南島原市役所で行われた全自動血圧計と振り込め詐欺見張隊の寄贈式には、南島原市長、南島原警察署長、島原半島遊技場組合長など、約20名の関係者が参加したが、その模様は地元のケーブルテレビで放映され、市民に広く周知された。

長崎県防犯協会連合会に対して 40年近くにわたって資金支援を継続

同組合では、2016年に島原市に防犯カメラ2台(100万円相当)を寄贈しており、島原警察署長から感謝状が授与されたほか、寄贈式の模様が地元紙の『長崎新聞』に掲載された。寄贈された防犯カメラは、水の都と呼ばれる島原市の観光スポット「鯉の泳ぐまち」に設置され、観光地の安全・安心に寄与している。なお、2018年には雲仙市(防犯協会)に対し、防犯啓発看板を寄贈したことで、3年間で島原半島の3自治体の「安全で安心な街づくり」に貢献するという当初の計画を達成した。

このような寄贈にあたっては、より効果を上げるため、組合が独自判断で内容を決めるのではなく、地元自治体や警察などと事前協議を重ねたうえで、要望に沿ったものを贈るようにしている。

さらに同組合では、1979年から長崎県防犯協会連合会に毎年、7万円の資金支援を続けているが、長年の資金支援に対し、昨年5月には同連合会総会の席上で、会長から感謝状が授与された。また、2015年8月には、同組合の組合長以下5名が「防犯・暴力追放パレード」に参加している。今後も、島原半島における安全・安心な街づくりに寄与するための活動に積極的に参加していく方針である。